



いしかわ版

里山づくり ISO



ポスター交流会

～いしかわ版里山づくりISO取組紹介～

令和4年11月18日（金）

ポスター展示： 9：30～12：15

ポスターセッション：11：45～12：15



石川県地場産業振興センター 本館3階 第5研修室

（石川県金沢市鞍月2丁目1番地）



《 目 次 》

- 農業参入による能登の耕作放棄地解消の取組み . . . 2
[No.76] 株式会社スギヨファーム
- 能登志賀の郷リゾート 里山再生プロジェクト . . . 3
[No.203] 大和ハウス工業株式会社
- 矢田郷、里山を活かした地域づくり . . . 4
[No.247] 矢田郷地区まちづくり協議会
- 里山保全：持続可能な能登の里山集落づくり . . . 5
[No.315] 山口みどりの里保存会
- 白山市の里山「キッズの森」づくり活動 . . . 6
[No.334] 加賀白山ようござった

農業参入による能登の耕作放棄地解消の取組み

川上和孝（株式会社スギヨファーム）

農業参入の背景、目的

㈱スギヨは、2007年に石川県第一号の企業農業参入として七尾市能登島で営農を開始した。当初は4.8haの耕作放棄地から開始した農業も、2016年には穴水町、志賀町農場も加わり、2022年の現在では合計3か所、約50ha（うち耕作放棄地だった農地は約半分）に拡大した。

水産加工会社である㈱スギヨが、全く新しい分野である農業に参入した目的は、能登の里山再生・保全といった社会貢献的な意義に加え、栽培品目を自社の水産練り製品への活用、あるいは新商品を開発するというビジネス的な背景もあった。

具体的な内容

当社の営農部分の半分は耕作放棄地を再生した農地である。農地に生い茂った雑草を刈払い機で伐採して再生したところもあれば、雑木が生えた耕作放棄地を重機にて抜根、開墾したところもある。他にも、水が出ないところには水路を整備したり、水はけの悪いところに明渠、暗渠を作ったり、緑肥による土づくりを進めたり等、農地の改善に力を入れてきた。



写真1. 耕作放棄地の開墾

成果、実績

能登島の西島地区の大規模な畑地の耕作放棄地は、ほぼ解消された。現在の主な栽培品目は露地栽培のキャベツであり、2021年度は約450tの生産実績があった。

農地改善によって、単収も向上してきており、3年後には600t、5年後には700tの栽培計画を立てている。

今後は、省力化と効率化、さらに農繁期と農閑期の作業量の格差の平準化を図る目的で、スマート農業にも取り組んでいく計画である。



写真2. 再生圃場でのキャベツ栽培

【お問い合わせ先】

氏名	川上和孝	所属	株式会社スギヨファーム
住所	〒9260855 石川県七尾市西三階町 10-4-1		
電話	0767-54-0831	FAX	0767-52-2571
E-mail	kawakami@sugiyoko.jp	HP 等	

能登志賀の郷リゾート 里山再生プロジェクト

石田 浩・瀬戸 祥司・矢野 公輔（大和ハウス工業株式会社）

活動の目的

能登志賀の郷リゾートは志賀町にある森林住宅地です。現在約520棟が建ち並ぶエリアではご定住、別荘、店舗等、様々な利用形態がとられています。近年では交流拠点「シェアサロン暮らす森テラス」がオープンしオーナー様と地域の方々との繋がりも深まっています。

エリアの森林植生はアカマツ主体であり、近年松くい虫の影響による枯れ松が多数発生し、森林の荒廃も確認されます。近隣の森林も人の出入りがなく、里山としての機能が弱まっています。生物多様性の機能を存続させ、循環型のまちづくり、里山の景観を創出しながらの人々の交流活性化を目的として里山再生プロジェクトを発足しました。

活動メンバー

森林住宅地の管理運営をする大和ハウスグループのメンバー、オーナー様、地元の方々が主力となっています。季節毎に開催する活動には、たくさんの方々に参加頂いています。



ウッドチップ堆肥づくり

活動内容

季節毎にオーナー様との共創イベントやボランティア活動に取り組んでいます。

季節のお楽しみには、「いしかわ版里山づくり ISO」の制度を活用して、知識豊富な講師を派遣して頂いています。生物多様性保全への取り組み、伐採木活用による資源の循環、菜園ファームでの食育、里海清掃ボランティア活動等を開催しています。

今後の目標

里山再生プロジェクトを通じて人々の交流が深まりながら、生物多様性への取り組み、循環型まちづくりを継続発展していくこと。

世界農業遺産「能登の里山里海」を深く理解し、その輪を広げたいと考えています。



植生を学び歩く会

【お問い合わせ先】

氏名	瀬戸 祥司	所属	大和ハウス工業株式会社
住所	〒920-8203 石川県金沢市鞍月5丁目57番地		
電話	076-239-5008	FAX	076-239-5025
E-mail	notori@daiwahouse.jp	HP等	https://www.daiwahouse.co.jp/shinrin/noto/

矢田郷、里山を活かした地域づくり

関軒 明宏（矢田郷地区まちづくり協議会 企画推進部会・七尾城まつり実行委員会）

活動をはじめた背景・目的

七尾市矢田郷地区は、市内中心部から南西方向に約3キロ離れた七尾城跡の麓に広がる地区で、24町会、所帯数約4,500世帯、約10,000人強の住民を有する、七尾で最も住民の多い地区です。その中で、新しく組織された「矢田郷地区まちづくり協議会」は、生涯学習という公民館の活動に加え、住民の安全・安心を求めた地域づくりの取り組みを進めています。その中で公民館の時代から「七尾城跡」を核とした里山の魅力発信の活動、例えば歴史的な食をテーマにしたお弁当や食事の再現、トレッキングなどに努めており、併せて住民の憩いの場の創出、子どもたちにも故郷の拠り所としての七尾城を感じさせる取り組みにも力を入れています。そして、「城ブーム」の中、県内外の多くの観光客の方々にも喜ばれ、親しまれる七尾城、そして矢田郷地区を目指した地域づくりを行っています。



具体的な活動と目標

矢田郷地区まちづくりの七尾城跡での一年間の活動は、県道177号線の美化活動、4月には七尾城山の開山祭前日の「県道城山線沿道クリーン大作戦」に始まり、平成29年度から始まる地域連携沿道環境創出事業（いしかわ我がまちアドプト制度）での5、6月からの花壇整備を継続しており、令和3年度の第80回七尾城まつりでは、中能登土木総合事務所のご理解を得て、お茶の木を花壇奥に植栽しました。7月には山から海へ繋がる地域活動の一環として「大谷川クリーン大作戦」を、矢田郷地区を流れる大谷川とその支流でゴミ拾いを行っています。8月末には、9月の「七尾城まつり」、11月の七尾城トレッキングに向けての草刈りやゴミ拾いを地域一丸となって行っています。七尾城を始めとして地域資源を見直したり、地域ならではの文化を考え、矢田郷地区がよりよい里山としても発信していければと考えています、矢田郷地区は古墳時代から始まり、奈良、平安、鎌倉室町といろいろなものが残っています。そのようなものを大切にしながら未来に向かって活動を進めていければと願っているところです。



【お問い合わせ先】

氏名	関軒 明宏	所属	矢田郷地区まちづくり協議会
住所	〒926-0021 七尾市本府中町ヲ部38番地		
電話	0767-52-5240	FAX	0767-52-5249
E-mail	k-yatagou@pub.city.nanao.ishikawa.jp	HP等	

里山保全：持続可能な能登の里山集落づくり

吉村 泰輝（山口みどりの里保存会）

活動経緯と課題

- 金沢大学川島教授から「山口地区は1等米の比率が極めて高く、米づくりの適地である」という評価を頂く。
- 農家の高齢化、後継者不足が進む一方で、農作業の機械化が進み、山口地区においても子どもが田んぼにふれあい体験する機会が減少し、農作業の効率化とともに農耕文化も廃れていった。
- 地域ぐるみによる伝統的農法の保全を行うとともに特別栽培米「能登木郎米（のともくろうまい）」の栽培が始まった。



取組内容

- 「耕す＝文化」である能登の里山の暮らしを守り次世代につなぐため、耕作放棄地が出ないように集落全世帯で管理する「集落共同田」を始め、子どもたちも含めた地域住民全員に『出番』と『居場所』をつくった。
- 「里山」の厄介者となっている放置竹林をチップ化し発酵させた竹堆肥を田圃に播き、「里海」の恵みである海洋深層水を里山の天然水と一緒に流し込む田面流込や登熟期に葉っぱに噴霧する葉面散布を行い、能登の里山と里海の豊かな地域資源にこだわった米づくりを始めた。
- 昔ながらの稲架干しや虫札、刈上祭、あえのことなど、農作業の機械化により廃れていた地域の農耕文化を復活・継承している。



取組の効果

- こうした里山保全活動を通じて、地域コミュニティが強化され、将来にわたってこの集落に住み続ける「誇り」基盤づくりにつながっている。
- 令和元年度には、東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム（東大F S）に採択され、「持続可能な能登の里山集落づくり」をテーマに東大生が山口地区の現状を詳しく調査し、課題解決策を提言し、地域の将来を担う20～40代の集まり「山口若者会」が発足した。
- 令和2年度には、「能登の里山集落と関係人口づくり」をテーマに東大生と山口若者会が連携して、「あえのこと」をオンライン配信。現在でもフェイスブックなどSNSで山口みどりの里保存会の活動を山口若者会が情報発信している。



【お問い合わせ先】

氏名	花畑 壽一	所属	山口みどりの里保存会 代表
住所	〒927-0624 鳳珠郡能登町字時長3字52番地		
電話	0768-72-1515	FAX	0768-72-1515

白山市の里山「キッズの森」づくり活動

山本 謙一・山岸 外司憲（加賀白山ようござった）

遊びで伝える里山の魅力

私たちは、里山遊びを通して、楽しみながら里山保全・整備に取り組んでいます。

2012年4月、私(山本謙一)が所有する白山市河内町福岡地内の里山を3～4枚の写真で紹介したことが始まりです。カタクリ群生の写真、子供たちがカブトムシ探しや落ち葉ソリ・里山キッチンを楽しんでいる写真、行者ニンニクやアサツキ・マイタケ作りの写真を示して、里山保全・整備の取組模様とその必要性を説明しました。その秋、「加賀白山ようござった」が「里山遊び」を計画し、チェーンソー・薪割り、原木シイタケ植菌の体験、たき火と焼き芋、キノコ探し、原木シイタケ・ナメコの採取、里山キッチンを楽しみました。白山市広報誌に参加者募集を掲載し多くの参加者があり、新聞・TV取材もありました。翌年から、白山市観光課企画の「ぶらり白山市健康づくり」のコースの一つに「里山散策(トレッキング)」を加え3年間続きました。その後も、「加賀白山ようござった」独自で「カタクリ群生観賞と春の里山トレッキング」と「キノコ探しと秋の里山トレッキング」、加えて「里山キッチン」を実施しています。

2022年8月、多くの人に里山に親しんでいただくために、「原木シイタケオーナー募集」を開始しました。



2012/4

2012/11

2022/6

里山整備・保全の取組み

2014年、企業の助成を得て、電柵機器部材、チェーンソー、草刈り機などを購入し、里山保全・整備に本腰を入れることになりました。また、里山での休憩・里山キッチン用のテーブル等を手造りしました。毎年、電柵機器部材や工具の補充は必要となっています。



2014/9

2022/10

2021/10

2021/10

「キッズの森」づくり

2021年、「カタクリ群生観賞と春の里山トレッキング」などの行事の傍ら、自然体験広場「キッズの森」づくりを始めました。ツリーハウス、ターザンロープ、落ち葉ソリ、ブランコ、スラークライン、ツリークライミングを手づくりし、遊歩道整備も行いました。翌年4月以降、近隣のこども園から園児たちが訪れ、思い思いの遊具で元気よく遊んでいます。引き続き整備・充実に取り組んでいます。

里山保全のボランティア活動に取り組んでいる
「加賀白山ようござった」紹介 HP はこちら

